

医師は語る



医療法人社団健翔会
堀口医院 理事長
堀口 裕 先生

自然の要素（ネガティブイオン）が健康的な体をつくります

私の生まれたところ、それは北海道の山奥で都会とは全くかけ離れたところ。でもお陰で自然がいっぱいでした。畑には所狭しと西瓜（すいか）やいちご、まくわうりなどが沢山育っていました。庭とも畑とも区別のつかないところにはグミの実、グースベリー、小粒の青りんご、ひょうたん型の西洋なし、また野山には野いちご、山ぶどう、こくわなどがわんさかとありました。一年中自然たつぷりの中で育った食べ物、あれこれと食べきれないほどなっていました。いちごは形も大きさも揃いで到底売り物にはなりません。でもとにかく美味しいのです。お店に並んでいるいちごは、形も大きさも整っていて、甘みも最高です。けれども昔食べたいちごの味と違います。多分品種が異なるからでしょうが、昔嗅いだあの自然の香

りがしないのです。畑になっていたいちごは、虫除けもせず、またハウスも無くて温度や日差しの管理もされず、雨ざらしの状態です。いわば自然の中に放置された状態で、「勝手に育て！」といった感じでした。これはいちごだけでなく、ほかの果実も同じです。私は自然の風味をつけているのはネガティブイオン（マイナスイオン）だと思っています。土壌（栄養）に加え日光と水と酸素、そしてネガティブイオンの風にあたるのが、自然の美味しさの風味をつけているのだと思います。

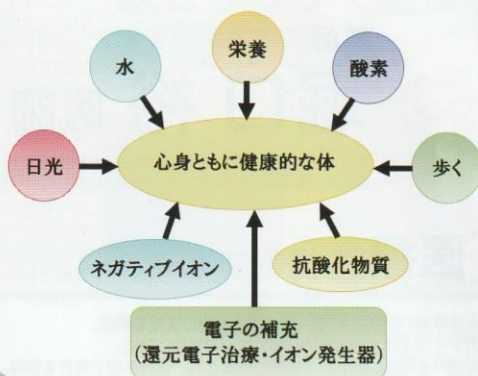


さて、自然の香りがする美味しい風味をもったいちごを、もし人にあてはめて表現するらうどうなるのでしょうか？ 多分、心身ともに健康的な体をもった人、ということになるでしょう。そのような人になるためには、いちごと同じように平生から十分な栄養に加え日光と水と酸素、そしてネガティブイオンまたは

抗酸化物質（ビタミンCやE、補酵素など）が必要です。植物は風にあたることで揺られてしっかりと生育します。人の場合は自分から外へでて行き、体を動かさなければなりません。いわゆる散歩をしたり、ウォーキング、体操をしなければなりません。例えば骨粗しょう症という病気は、骨の材料だけを摂取しても改善しません。必ず歩かなければなりません。人の健康作りには歩くこと、体を動かすことは必須なのです。さて人は活動量が多いので、自然界のネガティブイオンや抗酸化物質だけでは健康を維持できません。これらの物質は自律神経バランスを整え、細胞の新陳代謝（次々とエネルギーをこしらえて、不要の老廃物は排泄する）を円滑にし、また免疫バランスを整え、炎症を除去してくれます。

いわゆる自己防御力を高めます。そのような働きをするネガティブイオンと抗酸化物質との共通の物質は「電子」です。活動量が多い人では、常に電子を補充する必要があるのです。その目的でイオン発生器と還元電子治療器が作られました。心身ともに健康的な体を作るために、日頃からしっかりと電子を補充してくだ

さい。ちなみに西瓜やいちごの生育に電子を補充したら、きっと自然の風味たつぷりの美味しい果実に仕上がるでしょう。



健康的な体をつくるための基本的要素



【堀口裕先生プロフィール】

北海道出身。川崎医科大学医学部卒業。一九九二年香川県坂出市で医療法人社団健翔会堀口医院を開院、現在は理事長兼院長を務める。長年に亘り、空気中のネガティブイオンに関する生理的作用を研究、独自に開発された細胞内検査と還元電子療法を駆使した、根元（ねもと）医療という新しい医療を推進し、国内外で活躍している。